

寅さん歩 その 23

東京の博物館めぐりー53

文京区ー6



平野 武宏

文京区の博物館めぐりの続きです。今回はコロナ禍での外出自粛や休館で行けなかった大学の博物館を訪問します。写真右上は東京大学本郷キャンパスの赤門です。博物館めぐりは区内に多くある博物館(記念館・資料館・展示館等を総称します)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。各博物館の詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料はいずれも無料です。最寄り駅は代表例です。

バーチャルウォークは松尾芭蕉とあるく「奥の細道」を開始しました。途中経過を報告します。

[東京大学総合研究博物館] 文京区本郷 7-3-1

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅

2013年(平成25年)3月に千代田区・東京駅前のJPタワーにJP(日本郵便)と東京大学の産学連携で「インターメディアテク」が開館したので、東京大学本郷キャンパス構内の総合研究博物館は移ったと思っていました。調べると、本郷キャンパスの東京大学総合研究博物館(The University Museum、The University of Tokyo)略称 UMUTが本館と知りました。



インターメディアテクについては寅さん歩 327 東京の博物館めぐりー14
千代田区ー4 をご覧ください。

東京大学総合研究博物館への入口は春日通り本郷三丁目交差点を越し、すぐに入る小道にある「懐徳門」(写真上左) [2007年に新設の門で名は明治40年に建てられた懐徳館旧館(旧前田侯爵邸)に由来とのこと]。「赤門」から入る場合はすぐ右折して進むと博物館の正面(写真上右)に出ます。1966年(昭和41年)4月開館の資料館を1996年(平成8年)に総合研究博物館に改組しています。地学系、生物系、文化史系の3系17部門に分け東京大学が設立以来収集した各専門分野の学術標本資料を保管、分類・整理して教育・研究などの活動に役立てています。写真下左は「コレクションボックス」(モース発見の大森貝塚土器やナウマン像化石など)、写真下右は「標本回廊」(太陽系から人類へ)です。



写真下右は「無限の遺体」(実物大の動物の標本と骨)です。間近に見る動物のはく製には驚きました。



写真下左右は特別展示室で開催中の「空間博物学の新展開」(建築や都市の空間を保存し、今後の新しい空間創出に結びつけることを企図)です。文京区の小石川分館(現在休館中)でも建築標本のコレクションを見ました。

小石川分館は寅さん歩 350 東京の博物館—37 文京区—5 をご覧ください。



写真左は「時を刻む先端科学 AMS公開ラボ」でガラス越しに見られました。

博物館の開館日は木・金曜日（休日と重なる場合は振替しない）、開館時間は10時～15時で事前予約です。寅次郎、知らずに訪問した日は予約者が満たないので入館できませんでした。

東京大学本郷キャンパスについては寅さん歩 196 東京の学食めぐり—5 および寅さん歩 197 東京の紅葉・黄葉—5 をご覧ください。

[東洋学園大学 東洋学園史料室] 文京区本郷 1-26-3

最寄駅 東京メトロ丸ノ内線 本郷三丁目駅



白山通りから本郷通りに向かい壱岐坂を歩いていたら東洋学園大学1号館（写真左）があり、東洋学園資料室が見られることを知り、後日訪問しました。壁面はフェニックス・モザイク「岩間がくれの菫花」建築家・日本芸術院会員・早稲田大学名誉教授 今井兼次(1895～1987)がデザイン・制作指導の作品とのこと。脇の説明板には[1961年(昭和36年)の東洋女子短期大学校舎建設に際し、学園

のシンボルとして制作されたもので、校舎の建て替えに当たり、原形のまま保存されました。フェニックス・モザイクとは不要となった日用雑器が芸術作品の中で永遠の輝きを保ち続けることを意味する。この壁画には戦禍から復興途上の東洋学園がウィリアム・ワーズワース「ルーシー詩編」の一節、「岩間がくれた堇花」に仮託され、ほか複数のイメージが投影されている。今井兼次はフェニックス・モザイクで彩る日本 26 聖人殉教記念館（長崎）、桃華楽堂（皇居・香淳皇后還暦記念音楽ホール）などの作品を残し、またアントニオ・ガウディを日本に紹介した業績で知られる」と記載。今井兼次の建築デビューは早稲田大学 會津八一記念館であると早稲田大学早稲田キャンパス訪問時に紹介しました。写真下左の入口から入り、9階が資料室（写真下右）です。



東洋学園は 1926 年（大正 15 年）女子高等教育の進展を背景に創立された、理系の旧制・東洋女子歯科医学専門学校でした。戦後の学制・医療改革による旧制高校併設を経て、文系に転換して新制・東洋女子短期大学（英語科）になりました。1992 年（平成 4 年）に四年制共学の東洋学園大学を設置し、短大は創立 80 周年の 2006 年（平成 18 年）に使命を終えました。東洋学園史料室はこれら旧設置校の資料と記録を保存（写真下左右）し、活用を図る大学アーカイブスとして同年に設置されました。



開館日は月～金曜日（平日）、10時～16時30分、休館日は土・日・祝、学校休業日です。学外の方は1階の総務課で受付して入ります。



外に出て1号館左先にフェニックス・モザイクに付置していた「東洋女子短期大学（TWC）モニュメント（今井兼次1961年作）」と「東洋女子歯科医学専門学校発祥の地」の碑がありました。（写真左）

〔日本女子大学 成瀬記念館〕 文京区目白台2-8-1

最寄駅 JR 目白駅

1901年（明治34年）**成瀬仁蔵**（1858～1919）は日本初の女子の総合的高等教育機関 日本女子大学校（現在の日本女子大学）を開校しました。成瀬仁蔵は留学先の米国で先進的な女子教育を目の当たりにし、女性が教育を受けなければ日本がより良くなるわけがないと考え、燃える情熱と不動の信念をもって終生、女子教育の新しい理想の実現に尽くしました。資金面では**実業家の広岡浅子**（NHK連続テレビ小説「あさが来た」の主人公のモデル）の助けがあり、伊藤博文、西園寺公望、大隈重信、渋沢栄一、板垣退助らの支援がありました。

1981年（昭和56年）創立80周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として、創立者の偉業を偲び、成瀬記念館の建設を企画しました。創立者の教学の理念と本学の歴史を明らかにし、もって建学の精神の高揚と継承を図るとともに、ひいては女子教育研究の進展に寄与しようとしてしました。

写真下左は成瀬記念館の外観、ロマネスク調の建築で外壁の鮮やかな赤レンガが特徴です。写真下右は建物内部です。



館内は撮影禁止なので言葉で説明します。2階の展示室には成瀬仁蔵の生涯が展示されています。維新動乱の長州に生まれ、若くして身近な人の死に直面し、宗教心が芽生え、キリスト教との出会い、大阪に出て梅花女学校の創立に参加、新潟教会の初代牧師となり、新潟女学校校長、単身でアメリカへ行き、神学校で学び、帰国後は女子高等教育機関設立運動、不屈の信念で日本女子大学の開校、情熱的な教育活動を行う一方、新しい社会活動も展開しました。

1階では婦人国際平和自由連盟（WILPF）100周年記念展が開催（7月2日まで）。成瀬仁蔵は帝国主義と軍拡の時代においての人類全体の発展と世界的平和を望み、女性にはその役割を果たす力があると説いています。

開館日は火曜日～土曜日（祝日を除く）、開館時間は10時～16時30分（土曜日は正午まで）、正門受付で受付して入門カードをもらいます。

寅さん歩 226 東京の学食めぐり-30 をご参照ください。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。全行程約2400kmの長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022年4月26日、江戸深川（現在の江東区深川）の芭蕉庵を出発、2022年5月6日、下野国の室の八島（むろのやしま）（現在の栃木県栃木市惣社町）にある大神神社に参拝しました。江戸深川から92kmの地です。

八柳さんのコースシートには都度、芭蕉の俳句が掲載されていますが、室の八島での俳句は残されていません。実際の景観が歌枕（古歌の詠まれた名所）に寄せる期待を裏切るものであったからとされています。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようお願いいたします！

平野 寅次郎 拝